

世界のエスキス

— 地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す —



日 時 : 2013年4月27日(土) 13時30分 ~ 18時25分
場 所 : 稲盛財団記念館大会議室 (3階・333号室)

趣旨

与条件の変化や現実に対応しながら、絶えず計画を練り直していく作業そのものを、建築分野ではエスキスと呼ぶ。そうだとすれば、地域の現場と学問の現場の往還を通して、地域像を練り上げていく地域研究者たちの姿勢は、まさしくエスキスである。本ワークショップでは、地域研究者たちの分析手法や思考の構築作業をエスキスという観点で捉え、そこから描き出される地域像を持ち寄る。それによって、より豊かで手応えのある地域の見方・あり方を議論し、導き出したい。

一般的には地域の来歴や現在の状態は、人々の語りや文書などを通して言葉として表現されてきたが、形態(カタチ)として記録されている情報も重要である。民具、建築、景観、植物、さらには表現された形態としてのしぐさ、体操、映画に描かれる情景など、枚挙に暇がない。それらは地域や社会の変化の中で様々なカタチとして生まれ、変化してきたが、見方を変えればそのカタチは、様々な地域や社会そのものを作り出す際の手立てでもあった。つまりそれは、今の私たちにとって、地域や社会の創造や再設計に関わる参照可能な経験と手法のリソースとしてもあるのだ。地域の状況を理解することは、そうした変化や創造の過程を読み解くことに他ならならず、その読み解きに長けた者たちが、地域研究者といえよう。

しかしながら、言葉の読み解きに比して、カタチの読み解きは、背景となるディシプリンや個人々の特殊能力に裏打ちされた技法の結果として、ブラックボックスのように見なされ、共通の議論の場にのぼることはほとんどなかった。そこに異分野間の架橋しがたい溝がありつづけてきたともいえよう。

本ワークショップでは、こうした形態を読み解く手法を地域研究者が持ち寄り、それぞれ具体的な事例を各自の手法で分析してみると、異分野間を架橋する議論のプラットフォーム構築を目指す。その際、今ある世界を変化の結果として受動的に認識するのではなく、私たち自身もそこに介入する積極的な存在として捉え返してみたい。世界の変化にさらされながら、よりよい世界の創造に向けた終わりなきエスキスを行うのは、他でもない、私たちであるからだ。

プログラム

	はじめに
13:30 ~ 13:40	林 行夫 (京都大学 地域研究統合情報センター長)
	趣旨説明
13:40 ~ 13:55	谷川 竜一 (地域研)
	地域のコンパス：ベトナム紅河デルタの土地利用
13:55 ~ 14:30	報告者：柳澤 雅之 (地域研)
	3.75度の近代：韓国・景福宮前の建築交代を読む
14:30 ~ 15:05	報告者：谷川 竜一 (地域研)
	ヤスミンの物語：マレーシア映画に表われる秩序と反抗
15:05 ~ 15:40	報告者：山本 博之 (地域研)
15:40 ~ 15:55	Coffee Break
	ビールと鉄棒：ナチス・ドイツのオリンピックとチェコのマスゲーム
15:55 ~ 16:30	報告者：福田 宏 (地域研)
	パチャママの涙と夢：ペルー社会の亀裂克服の試み
16:30 ~ 17:05	報告者：村上 勇介 (地域研)
17:05 ~ 18:20	コメントおよび総合討論
	コメント：川喜田敦子 (中央大学 ドイツ現代史・地域研究) 石川 初 (株)ランドスケープデザイン ランドスケープアーキテクト) 深田 晃司 (映画監督『ほとりの朔子』)
	おわりに
18:20 ~ 18:25	原 正一郎 (地域研)

18:30 ~ 懇 親 会 場 所 : 稲盛財団記念館中会議室 (3階・332号室) ※会費制